

平成31年1月31日

平成30年度 卒業論文

スポーツ選手の名言の表現特性
～スポーツ雑誌に掲載される名言とは～

国語表現ゼミナール

指導教官 野浪 正隆先生

大阪教育大学 教育学部

学校教育教員養成課程 国語教育専攻 中学校コース

152202 乾美咲

(400字詰め原稿用紙換算 112枚)

目次

序章 研究動機・目的.....	3
第一節 研究対象.....	4
第二節 研究方法.....	11
第二章 分析結果・考察.....	13
第一節 競技種目による特徴.....	13
第二節 男女比.....	14
第三節 名言がポジティブかネガティブか.....	15
第四節 名言の内容.....	19
第五節 名言の内容と、ポジティブ・ネガティブの関係性.....	24
第三章 結論と今後の課題.....	28
第一節 結論.....	28
第二節 今後の課題.....	29
終章 終わりに.....	30

序章 研究動機・目的

2020年に東京オリンピックが開催されることが決定した。これまでオリンピックで全力を尽くす選手達の姿、血の滲むような努力をしてきた選手の姿を見て、多くの人が感動してきたことだろう。そして、そのような選手が発する言葉は、心が打たれるものが多い。

私自身、フィギュアスケート選手の浅田真央選手の言葉で感銘を受けたものがある。それは、引退会見で言った「この道を選んできたのは自分ですし、自分がやりたいと思って、望んでやってきた道なので、辛いと思ったことはありません。」という言葉である。これは「これまでのスケート人生の中で、プレッシャーや辛かったことはありませんか。」というインタビュアーからの問いに対しての返答である。才能があるがゆえに周りから期待され、その期待に応えようと、並外れた努力をしたことだろう。しかし、思うように結果がでないこともあった。そんなことがあったのにも関わらず、堂々と言い切った浅田選手が私の心に今でも残っているのである。立ちほだかる壁から逃げず、最後まで戦いきることで、その道を選んだ自分自身を認めることができたのではないだろうか。私の場合は、自分で選んだ道なのに、その道を選んだことを後悔したり、辞めたくなくなったりすることが多々ある。しかし、浅田選手のこの言葉を聞き、簡単に諦めるのではなく、その道を選んだ過去の自分を信じ、もうひと踏ん張りしようと思うことが出来た。

このように、名言は単に感動させるだけでなく、人の心の支えになることも多い。そのような名言の表現特性を明らかにしたいと思い、今回の研究に至った。

第一章 研究概要

第一節 研究対象

今回は、スポーツ選手の名言に絞り込んで研究していく。特に、スポーツ雑誌のweb版『Number Web』に掲載されている「今日の名言」からピックアップして分析を行った。今回、研究対象としたスポーツと名言は以下の通りである。

・バレーボール

日本は1人の大エースが決めるというバレーではなく、拾って攻め返していくというバレーです。もっとチームプレーにこだわって、12人が結集していけば結果はついてくるはずですよ。	吉原知子
コートに入れば33歳も19歳も関係ないんだよ。	吉原知子
勝ちにこだわり続け、伝説に残るチームをつくりたい。	中田久美
常識の延長線上に勝利はありません。	中田久美
それぞれが役割を果たして、この戦術をコートの中でしっかり表現できれば、世界一も行ける、という思いはあります。	木村沙織
何より、バレーを始める子供たちが増えればいいな。好きなことを一生懸命やったら、将来は開けるということを示したい。	木村沙織
あのジャッジは今でもミスだと思っている。	中垣内祐一
バレーは確率、いわゆる統計学のスポーツなんですけど、その確率を高めるのはコート内での集中力。薄紙一枚一枚を重ねるように技を積み上げても、強い精神力がなければ試合でミリずつのズレとなって現れてしまうんです。	中垣内祐一
最近、どんなシチュエーションでも“私にできるかな”から“自分がやるんだ”と思うようになりましたね。	大友愛
どんなトスでも、全部、大丈夫です。	古賀紗理那
メダルがイメージから具体的なものへと、明確に見えてきたんです。	竹下佳江
データデータと言ったって、最後は気持ちなんですよ。	眞鍋政義
これまでは辞める監督が次の人を選んだ。これが最大の失敗。	豊田博
辞めてみて今思うのは、一つの目標を持ってそこに突き進むのは、過酷だし本当にしんどいけど、努力すれば絶対に花が咲く、ということ。いま僕、花満開ですもん。	荻野正二
日本が強くなるにはプロ化しか方法がないと思った。でも、組織が動く気配が全くないので、自分で行動するしかなかったんです。	加藤陽一
私たちに一番大切なものは山田先生ではなく、バレーボールだって。	大林素子

・フィギュアスケート

NHK 杯まで、あと3週間しかない。	羽生結弦
フリーはまだ難しかった。やっぱり五輪ってすごい。僕はスケートが大好きなので、また4年、もっと高みへ精進したいです。	羽生結弦
氷の上はありのままの自分でいられる場所。特別だと思います。	羽生結弦
すべてにおいて自分の目標を達成し、今はやりきった思い。引退はハーフ&ハーフです。	浅田真央
結果次第とは思っていましたが、自分の限界はわかっていたので、最後にすると決めていました。ああ、終わったな……と思いました。	浅田真央
出場選手すべてがライバルだけど、フィギュアスケートはボクシングみたいに、直接、他人と戦うわけじゃないから。	浅田真央
私、嬉しいときも、悲しいときも泣いたりしません。可愛くないんですけど。	荒川静香
チャンピオンになるには、実力と同時に、運も必要。すべての条件が揃ったときに、チャンピオンが生まれるのだと思う。	荒川静香
「優勝おめでとう」と言われるより、「あの時の演技が忘れられない」と言ってもらえる方が嬉しいですし、自分の人生観を氷上で伝えられる選手になりたい。	安藤美姫
自信はないし、弱音はしょっちゅう吐くし、びびったりもする。やっぱり自分は弱いですけど、だからそれを埋めようと、練習を一杯する。	高橋大輔
貸し靴の子、世界一を目指す子、どちらも教える楽しさ、やりがいが変わりはありません。	濱田美栄
ぼくも後輩たちにとってかっこいい存在でありたい。でもぼくの今のスタンスは万人に受け入れられない部分もある。自分はやりたいことをやっていくから、わかってくれる人だけわかってくれたらいいと思う。それでも「彼についていきたい」と言ってくれる後輩が一人でもいたら、スケーターとして幸せだと思います。	町田樹
私には、ライバルはひとりしかいません。それは自分です。ほかの選手が、未来を悪く滑らせるわけではないですから。	長洲未来
2022年に母国で金メダルを取る。これは目標というより、大きな夢です。	金博洋
プーチン大統領が普通の人として振る舞って、私たちを祝福してくれたのが嬉しかった。	ユリア・リプニツカヤ
僕が今どれだけ露出するかで母国にフィギュアスケートが根付くかどうかが決まる。将来が僕の肩に掛かっている。	デニス・テン
スケーターにとってだけではなく、観客にとっても歌詞のある音楽は温かく、意味のある印象を与えるのではないのでしょうか。このスポーツにとって、良い変化だと思います。	그레이シー・ゴールド
信じられない。2年前、どの試合でも調子が悪くて、自分の才能を疑ったこともありましたが、でも今は自分の能力に確信を持った。ソチで金メダルを取るのは、夢でした。	アデリナ・ソトニコワ
選手なら誰でも、納得のいかない判定を経験する。でもそれはどの選手にも平等に	ミッシェル・ク

起き得ることです。腐ったリンゴはどこの世界にもある。世間はフィギュアというスポーツを、審判を通してではなく、スケーターを通して見て欲しい。	ワン
フィギュアスケートはジャンプだけではない。スピン、ステップ、音楽表現など、全てにおいてベストな演技をした選手が、勝利するスポーツなのです。	ハビエル・フェルナンデス
納得のいかない採点は、誰でも経験してきた。それでやめてしまう選手はそこまでの実力だったということ。でも上にいく選手は、次は絶対にジャッジが1番をつけざるを得ない演技をしてみせる、と努力を続けてきた。それがこのスポーツだ。	ヴィクトール・ペトレンコ

・競泳

自分が敗者となることが許されない立場にあることは知っている。同時に、自国開催の大会で応援してくれる水泳ファンに応えたいという気持ちも消えなかった。	北島康介
水泳続けるなら、オリンピックじゃないと、自分は刺激を求められない。	北島康介
悔しいけれど、もう一度世界記録を作るチャンスをいただいたと思っています。水着の影響じゃない、と必死に努力している選手の姿を見てほしいです。	入江陵介
泳ぎは……、下手くそだと思います。直すところだけで。後半“バテない”ことが、当面の目標です。	寺川綾
軽くて、透明で、少し甘い味がして。まるでエビアンみたいな。	長崎宏子
奈津美さんの優勝で、すごくいい刺激になりました。私も続けたいと思って、最後は死ぬ気で頑張ることができたと思います。	渡部香生子
金メダルはゴールであると同時にスタートだったんです。	鈴木大地
3人で“康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない”と話していました。	松田丈志
やっぱりもう一度、五輪に行きたい。	マイケル・フェルプス
オリンピックが開かれるこのプールで勝つことが重要なのは分かっていた。この記録はあくまでステップでしかない。	イアン・ソープ

・体操

体操の質で言ったら、日本は絶対負けてない。自分たちの演技とミスがない演技ができれば絶対に勝てると思います。	内村航平
8年後の五輪に一緒に出よう。	内村航平
誰にも文句のつけどころのない演技を今日のテーマにしてやった。この場所でそれをできたのはすごく意味のあることだと思う。	内村航平
団体では銀メダルでしたが、銀だったことで4年後にリベンジしたいという気持ちになっている。	内村航平
個人の優勝は一人の喜びに過ぎないけど、団体の金メダルは皆で喜べる。だから団体がいいんです。	内村航平
視線を疎ましいと思ったことはありません。逆に、見てくれて感じます。	内村航平

本当になりたいのは何かって言ったら、“体操の神様”なんです。その域に達したい。	塚原直也
今の体操は人間の限界に近いところまで来ていると思います。だから少しの油断が命取りになる。心掛けているのは練習の段階でノーミスにしておくことと、本番では自分の演技にだけ集中することです。	塚原直也
スポーツは見てもらわなければ意味がないと僕は思っている。アフロは、体操を見てくれる人を増やすための一つの手段。自分が目立つことで、地味なあん馬を見てもらえるし、あん馬の魅力を伝えやすくなる。	亀山耕平
電気計時で人間の努力が計られるのはむなしいと思う。体操はオリンピックの中でもっとも人間くさい種目です。	加藤沢男
体操は私の居場所であり、帰ってくる場所。だから、体操で信頼を得られる選手になりたい。	村上茉愛
日本で一番になろうとしたら世界で一番になったということなんです。次は自分で一番だと認められる選手になりたいと思います。	白井健三
難しい技をいとも簡単に行っているように見せたかった。苦しいとか、痛いとか、無縁な表情で演技したかった。	富田洋之
メダルという結果を残したからこそ、それまでの努力が認めてもらえると思います。	斎藤良宏
私たちにはチームワークという、目に見えないものがあります。支え合ったり、声を掛け合うのが日本の強みです。	畠山愛理
理恵は理恵。そう思えるようになりました。	田中理恵
体操を選んだことで色々な土地を見聞もでき、より多くの友達を持つこともできました。才能は大事ですが、育てる大人も重要ですね。	ナディア・コマネチ

・卓球

もしこの気持ちを引きずってメダルを逃したら、私もだけど、佳純ちゃんにも美誠ちゃんにも4年間、しこりが絶対に残る。	福原愛
オリンピックは、私が一番自由に自分を表現できる場所。リオの表彰台から、ロンドンのときとは違う風景を見てみたい。	福原愛
喜びはほんの一瞬です。	福原愛
福原さんや石川さんに勝たないと、東京五輪に出られない。小学生も強い子がいるし、上も下もライバルがいて大変。	伊藤美誠
うちのお母さんは愛情を注いでくれるけど鬼なんです。だから、他の人にどれだけ厳しくされても、私は平気。	伊藤美誠
ちがうの、ママ。美宇の夢はオリンピックなの。	平野美宇
プロとして収入を得ることができるのであれば、それを自分が強くなるための投資に使うべきだと思ったんです。	水谷隼

・柔道

いままでは柔道ってスポーツだと思ってたんです。でも、いまは違う。やっぱり柔道とは武道なんですよね。	井上康生
心は入っていましたが、自分の柔道が大きくズレているのを感じる部分がありましたね。今は残念というか、何か「こんなものなのかな」という気持ちもあります。	井上康生
昨日のことは夢だったんじゃないか……ああ、オレは本当に勝ったんだ。	鈴木桂治
五輪は楽しむ舞台じゃない。	鈴木桂治
嫌なんですよね、倒れるのが。背中に付かれるのも、自分が下になるのも嫌です。どんな状況でも常に自分が上にいなければ。	田村亮子
皆さんのオリンピックへの期待が私を動かしています。	谷亮子
今でもやせたいと思っています。……柔道をやっているうちは仕方ないですけど。	塚田真希
ライバルって自分を育てるもんでさ、コイツを倒したいと思えばこそ努力するわけだよ。	岡野功
一度負けて、次も同じ相手に負けるのはアホじゃないですか。負けて強くなるのは、勝負師として当たり前じゃないですかね。	原沢久喜
世間の人々が期待しないのはしょうがないな、という気持ちはありました。でも一番確率が高いということで選んでもらったのだから、優勝しなくてはという気持ちはありました。	野村忠宏
素の自分……体力もない、技もない、ただ柔道着を着ただけの自分がそこにいた。	古賀稔彦
金メダルと銀メダルでは全然違う。	芳田司
昔から大舞台には強いんですよ。燃えるタイプなので。	ベイカー茉秋
勝者は誰なのか、戦う前にわかりはしない。それが私の生きた世界なのだ。	ダビッド・ドゥイエ

・プロレス

最近是新日本という会社としても、レスラー個人としても、世界に目を向けることが多い。それは全然悪いことじゃない。ただ、みんなが海外、海外と言うならば、僕は日本国内を独占しようかなと。	内藤哲也
最高ね……。答えはないと思うんです。スタイルにしても好みは人それぞれです。ただ、一番はやっぱり感情移入。一番感情移入できるレスラーが最高のレスラーなのかなと僕の中ではとらえています。	内藤哲也
あんな馬鹿な試合、俺と猪木にしかできないよ。	マサ斎藤
プロレスでいちばん重要なのは、凄い技を受けて、観客にインパクトを与えること。その思いは今も変わりません。	飯伏幸太
プロレスファンのみなさんに、プロレスの力というものを見せることができたと思います。	小橋建太
言葉が見つからない。レスルマニアで自分もファンも望んだ試合ができることに、興奮している。	中邑真輔

相撲から来る人は稽古が嫌いだからね……。	三沢光晴
ベテランがなんでベテランかという、お客さんの反応を掴むことができるからだよ。	百田光雄
おれからプロレスをとったら何も残らない。ただのバカに成り下がってしまいますから。	黒潮イケメン 二郎
僕はいままでいろんな選手に敵対視されてターゲットにされてきたんだけど、僕は反対に誰も意識したことないですよ。	藤波辰爾
長州は俺にとっては第一歩にすぎなくて、本当の意味でのプロレスの奥深さ、楽しさに目覚めたのは90年のランディ・サベージ戦です。	天龍源一郎
みんなが横一列に並ばされている新日本なんてダメ。IWGPベルトも泣いているよ。	橋本真也
プロレスラーじゃない奴を倒すのが格闘技のロマン。	中邑真輔
ウエスタン・ラリアットはカウボーイの投げ縄、牛を一発で捕らえる様子からヒントを得たものだ。	スタン・ハンセン
新日本はプロレスの見方を変えた。それが再び人気を博する一因だと思う。	AJ スタイルズ

・競馬

いま、感動してます。この馬の強さに。	武豊
ここまで来たら、誰にも破られないところまで行きたい。	武豊
人一倍勝ってきたけれど、人一倍負けてきましたからね(笑)。	武豊
人生には“流れ”がありますよね。経験上、悪い流れにいるときは、逆らわずに身をまかせたほうがいい。	福永祐一
いつの日か、“YUICHI”を認知してもらいますよ。	福永祐一
騎手にとって、馬とのコミュニケーション能力というのは、メチャメチャ重要です。	福永祐一
前はGIはどれも一緒だと思ってたけど、去年3着に負けて、その横で、勝ったデムーロがすごい歓声で迎えられるのを見ていて、やっぱりダービーは違うなあと思ったね。	安藤勝己
自分でも不思議なのは、どんなに失敗しても、次のレースには、プラスのイメージしか湧いてこないんですよ。もしかしたら、それがおれの強みかもね(笑)。	安藤勝己
それまでは目も合わせてくれなかった人たちが、勝ったとなったら駆け寄ってきて握手を求めに来てくれるんですよ。さすがアメリカですよ。	武幸四郎
いま技術的に最も乗れているというのに、騎手をやめる覚悟はできているかって？それはもちろんです。	武幸四郎
デビューの時には分からなかったことが最近では分かるようになりました。競馬の怖さというか、色々な状況を想像して乗るようになりました。	藤田菜七子
夢の話になりますけど——やっぱりダービー、獲ってみたいと思います。	藤田菜七子
あれれ、という負け方をするのは機械でなくて、いきものだから。それがファンの心をうつんだと思う。	内田博幸
競馬はギャンブルなのであって、負ければそれでおしまいよ。負けたらどうしよう	長山尚義

じゃなくて、勝ったらどうするなんだ。その夢を追うだけよ。	
アメリカ、カナダの馬が上位を独占するゴールインをみて、私は不覚にも涙がこぼれてしまった。悔し泣きである。完ぶなきまでに打ちのめされた日本の馬に、関係者のひとりとして、私の絶望感は深い。	野平祐二
競馬はたまにわからないことある。	クリストフ・ルメール
現在のシェイクの頭のなかには、ドバイの国政のことが98%で、残り2%が競馬です。	ジョン・ファerguson

第二節 研究方法

今回、スポーツ選手の名言の表現特性を研究するにあたって8つの項目を用いて分析を行った。8つの分析項目は以下の通りである。

- 1、名言を発した人の性別。
- 2、名言を発した人が日本人か外国人なのか。
- 3、名言を発した人が選手か監督かコーチか。
- 4、その言葉を発したときの状況はどのようなものであったか。
- 5、言葉の方向。

特定の人に向けられて発せられている場合は「相手」、特定されていない場合は「一般」とする。

- 6、名言の内容がポジティブかネガティブか。

ポジティブ→前向きな発言。

(例) **フリーはまだ難しかった。やっぱり五輪ってすごい。僕はスケートが大好きなので、また4年、もっと高みへ精進したいです。 羽生結弦**

ネガティブ→後ろ向きであり、自身もしくは他者を否定するような発言。

(例) **アメリカ、カナダの馬が上位を独占するゴールインをみて、私は不覚にも涙がこぼれてしまった。悔し泣きである。完ぶなきまでに打ちのめされた日本の馬に、関係者のひとりとして、私の絶望感は深い。 野平祐二**

両方→ネガティブな発言をしつつも、明るい未来を描いていたり、明るい未来に通ずる可能性を含んだりする発言。

(例) **自信はないし、弱音はしょっちゅう吐くし、びびったりもする。やっぱり自分は弱いですが、だからそれを埋めようと、練習を一杯する。 高橋大輔**

どちらとも言えない→選手の心情が読み取れない発言。

(例) **チャンピオンになるには、実力と同時に、運も必要。すべての条件が揃ったときに、チャンピオンが生まれるのだと思う。 荒川静香**

- 7、内容の意味。

「他人を奮起させるもの」「意気込み」「意見」「心構え」「感想」の5つに分けて分類した。

詳しくは第一章、第一節で述べる。

- 8、プレー面に関する名言か、精神面に関する名言か。

以上8項目を分類したものをExcelで表として以下のようにまとめた。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	名言	名前	競技	本人/外国	監督/選手	状況	言葉の方向	性別	ポジ/ネガ	内容の意図	一面/精神	備考						
2	日本は1人	吉原知子	バレーボール	日本人	選手	現役引退後	一般	女	ポジティブ	意見	プレー面	アテネ五輪代表のキャプテンを務めた吉原は「世界の強豪と戦った時に日本が難						
3	コートに入	吉原知子	バレーボール	日本人	選手(代表)	代表として	チームメイト	女	ポジティブ	他人を奮起	両方	アテネ五輪に出場した女子バレーボール日本代表は、ベテラン、中堅、若手の三						
4	勝ちにこだ	中田久美	バレーボール	日本人	監督	監督就任後	一般	女	ポジティブ	意気込み	精神面	バレーボール女子代表の監督に就任した中田は、並々ならぬ決意を述べる。デ						
5	常識の延長	中田久美	バレーボール	日本人	監督	監督就任後	一般	女	どちらとも	意気込み	プレー面	バレーボール日本女子代表の監督に就任した中田は、「私は選手に130%の力						
6	それぞれが	木村沙織	バレーボール	日本人	選手	試合前	一般	女	ポジティブ	意気込み	プレー面	「今の戦術で私たちが目指しているのは、セットが終わるごとに全員が同じくらい						
7	何より、バ	木村沙織	バレーボール	日本人	選手	移籍	一般	女	ポジティブ	意気込み	精神面	各国の代表選手が集結するトルコリーグに、「ホントは海外があまり好きじゃなか						
8	私たちに一	大林素子	バレーボール	日本人	選手	日立残留後	一般	女	どちらとも	意見	精神面	セクハラ騒動により山田重雄監督が辞任する中、日立残留を決意した大林のコン						
9	最近は、ど	大友愛	バレーボール	日本人	選手	現役中	一般	女	ポジティブ	心構え	精神面	シドニー五輪の出場権を逃した日本女子バレーボール。ジャパン再建の大役を任						
10	どんなトス	古賀紗理那	バレーボール	日本人	選手	練習中	相手	女	ポジティブ	心構え	両方	13年に弱冠16歳で日本代表に選出された、女子バレーボール日本代表の若き						
11	メダルがイ	竹下佳江	バレーボール	日本人	選手	試合前	一般	女	ポジティブ	心構え	精神面	「2年前の世界選手権で銅メダルを獲得してから、自分たちの意識がガラリと変わ						
12	データデー	真鍋政義	バレーボール	日本人	監督	試合後	一般	男	どちらとも	心構え	精神面	全日本女子バレーの監督を務める真鍋は、データ主義と称されるが、ことあるごと						
13	これまでの	豊田博	バレーボール	日本人	指導者	協会員として	一般	男	ポジティブ	意見	どちらでも	今でこそ、どの競技においても監督選任は極めて重要であるという考えは定着し						
14	辞めてみて	荻野正二	バレーボール	日本人	選手	引退	一般	男	ポジティブ	心構え	精神面	サントリーではリーグ優勝7回、日本代表としてもバルセロナ五輪6位入賞、北京						
15	日本が強	加藤陽一	バレーボール	日本人	選手	移籍	一般	男	両方	意見	精神面	Vリーグの東レでプレーし、全日本では主将も務めた加藤は、2002年にセリエAの						
16	あのジャッ	中垣内祐一	バレーボール	日本人	選手	試合後	一般	男	両方	意見	プレー面	中垣内の言う「あのジャッジ」とは、アトランタ五輪アジア予選の韓国戦でのことだ						
17	バレーは確	中垣内祐一	バレーボール	日本人	選手	現役引退後	一般	男	どちらとも	意見	精神面	全日本のエースだった中垣内は「バレーって、リズムとか流れとか抽象的な言葉						

そして、それらを数値化し、特に、競技種目、男女比、ポジティブかネガティブか、名言の内容、に着目して分析を行っていった。

第二章 分析結果・考察

第一節 競技種目による特徴

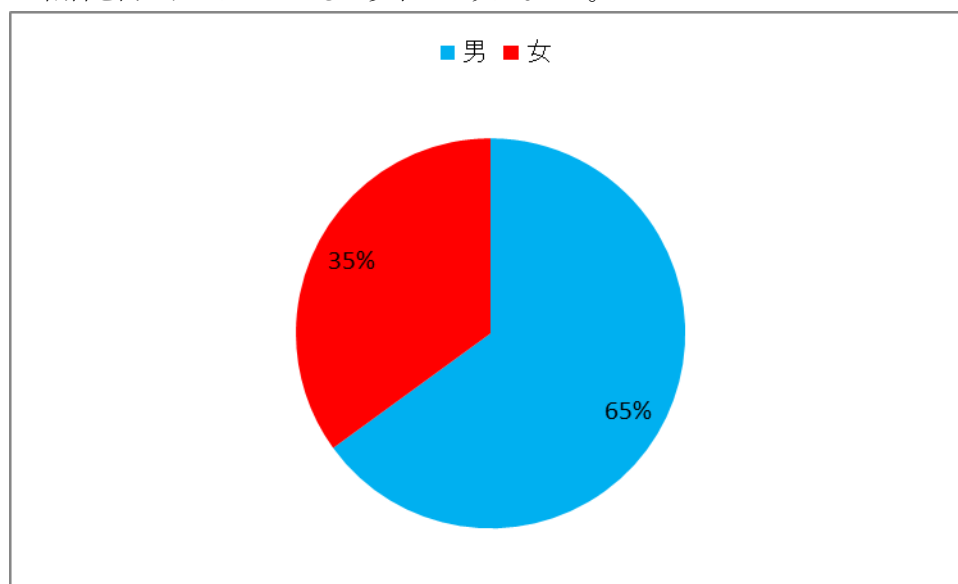
本節では、競技種目に着目して行った分析結果について述べていく。先述した分析項目に従って名言を分類した結果を表にまとめたものが下記である。

	ポジティブ	ネガティブ	両方含む	どちらでもない	他人を奮起させる	意気込み	意見	心構え	感想	プレー面	精神面	両方含む	どちらでもない
バレーボール	64%	0%	13%	25%	7%	28%	28%	35%	0%	21%	57%	14%	7%
フィギュアスケート	50%	0%	15%	35%	0%	15%	15%	45%	25%	9%	76%	4%	9%
競泳	70%	10%	0%	20%	0%	10%	10%	60%	20%	10%	80%	0%	10%
体操	82%	0%	5%	11%	5%	29%	11%	41%	11%	17%	58%	11%	11%
卓球	57%	0%	42%	0%	0%	57%	0%	42%	0%	0%	85%	14%	0%
柔道	42%	7%	7%	42%	0%	14%	14%	35%	28%	0%	85%	14%	0%
カレス	57%	0%	14%	28%	0%	14%	28%	42%	14%	7%	57%	28%	7%
競馬	73%	6%	6%	13%	0%	26%	13%	40%	20%	6%	80%	13%	0%

「他人を奮起させるもの」がバレーボール意外は最も少ない割合であったが、バレーボールだけは「感想」よりも多い7%という結果となった。今回の分析対象のなかでバレーボールのみが団体競技である。チームが一つとならないと勝つことは難しい。他人を奮起させることで、チームプレーの本領が発揮されることだろう。お互いを支え合い、時には叱咤し合いながら「勝つ」という目標に向かってチーム全体が奮闘する姿を応援するのも、団体競技を応援する醍醐味のひとつなのではないだろうか。だからこそ、唯一団体競技であるバレーボールだけが「他人を奮起させるもの」の割合がおおくなったのだと考える。

第二節 男女比

男女比の割合を円グラフにまとめると以下のようになった。

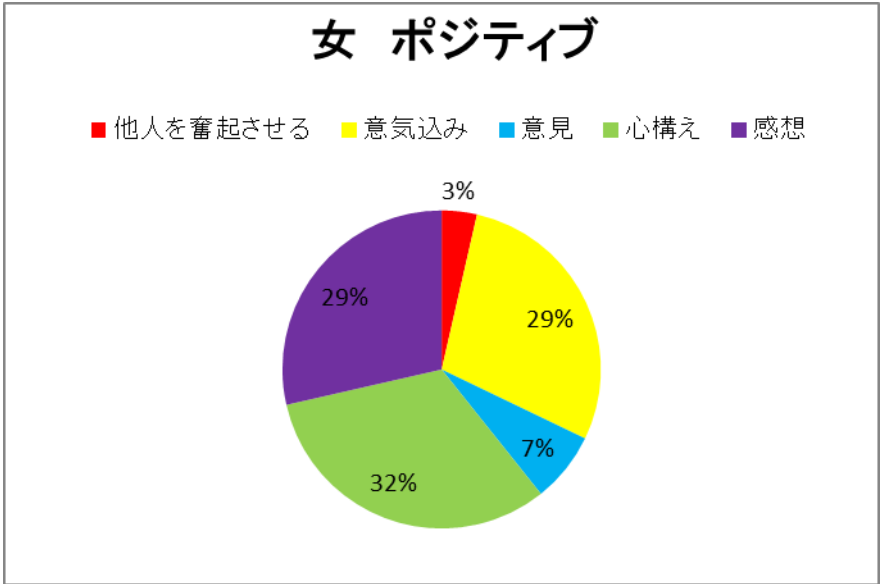
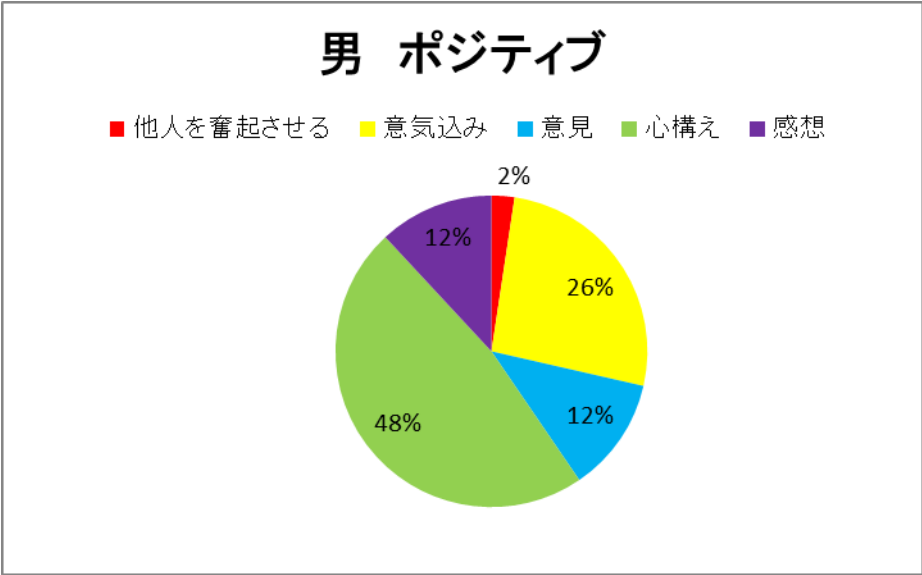


プロレスは男、競馬も圧倒的に男が多い。それがこのような割合になった結果である。

次に、男女ごとの分析結果を表にまとめたものを以下に記す。

	ポジティブ	ネガティブ	両方	どちらとも言えない	他人を奮起させる	意気込み	意見	心構え	感想	プレー面	精神面	両方	どちらでもない
男	58%	3%	12%	27%	1%	19%	21%	45%	14%	10%	68%	15%	7%
女	72%	5%	8%	15%	3%	30%	10%	36%	21%	13%	74%	8%	5%

男女とも、各分析項目の最も多くを占める割合と、最も少ない割合の分析項目は同じものとなった。しかし、ポジティブな言葉を発する割合は男性よりも女性の方が14%多い結果となった。この要因を探るために、男性、女性それぞれのポジティブな名言の内容はどのようにになっているのかを円グラフでまとめた。それが以下である。

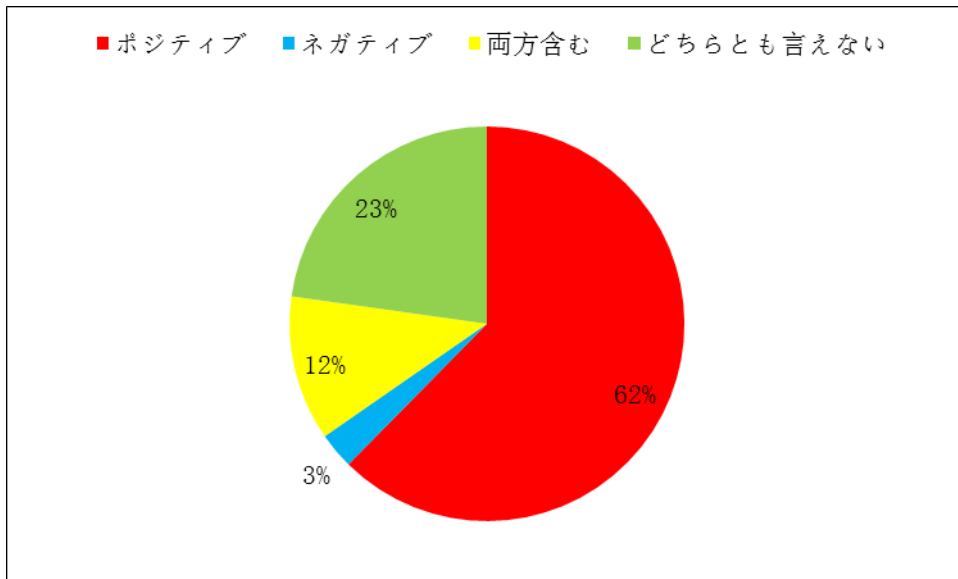


グラフを見ると、女性の「感想」の割合が多く、男性の「心構え」が多いことが要因だと分かった。男性は、どのようにスポーツと向き合うかを前向きに語る事が多く、女性は勝った喜びを率直に話すことが多いということである。

第三節 名言がポジティブかネガティブか

本節では、各スポーツの名言の内容がポジティブかネガティブなものかに着目して行った分析結果についてフィギュアスケートの例を中心に述べていく。ポジティブただし、フィギュアスケートの名言にネガティブと分類されるものがなかったので、競馬の野平祐二調教師と、柔道の井上選手の例を用いることとする。

研究対象である全112個の名言の内訳は以下のとおりである。



やはり、ポジティブな内容の名言が62%と過半数を超えていた。ポジティブな名言としては以下のものが挙げられる。

すべてにおいて自分の目標を達成し、今はやりきった思い。引退はハーフ&ハーフです。 浅田真央

フリーはまだ難しかった。やっぱり五輪ってすごい。僕はスケートが大好きなので、また4年、もっと高みへ精進したいです。 羽生結弦

前者の浅田選手の名言は、ソチオリンピックで優勝を勝ち取った際に放たれた言葉である。引退に関して、さらに浅田選手は「スケートをやるにしても、やらないにしても、この経験が宝です。」と続けた。ソチオリンピックでの自身の演技も、これまでのスケート人生も前向きに捉えていることがわかることから、明らかにポジティブな名言であると言える。後者の羽生選手の発言も、ポジティブな名言である。フリーで立て続けにミスをしてしまった羽生選手は「フリーはまだ難しかった。」と発言しているが、その後「やっぱり五輪ってすごい。」と続けていることから、フリーの難しさを後ろ向きに捉えるのではなく、五輪の素晴らしさに感動し、向上心を指摘する要因となっていることが読み取れる。フリーの難しさをもポジティブに捉えていることが分かる名言である。

自分に自信を持ち、何事も前向きに考えるスポーツ選手は非常に多い。前向きに物事を捉えるポジティブ思考に憧れる人々は少なくない。壁にぶつかったとき、人は後ろ向きに、否定的に考えてしまいがちである。だからこそ、そこで前向きにその壁を乗り越えようとする選手たちの言葉は、聞き手の心に強く印象づき、名言として認識されるのではないだろうか。

そんなポジティブな名言とは対照的な、ネガティブな名言も3%と少ないがあった。それが以下の名言である。

アメリカ、カナダの馬が上位を独占するゴールインをみて、私は不覚にも涙がこぼれてしまった。悔し泣きである。完ぶなきまでに打ちのめされた日本の馬に、関係者のひとりとして、私の絶望感は深い。

野平祐二

心は入っていましたけど、自分の柔道が大きくズレているのを感じる部分がありましたね。今は残念というか、何か「こんなものなのかな」という気持ちもあります。 井上康生

野平祐二氏は調教師であり、日本の馬を上位にゴールさせることが出来なかったことを深く悔やんでいる。「悔し泣きである。」「絶望感は深い。」という否定的な表現をストレートに使い、自身の後ろ向きな気持ちを表している。

2007年の世界柔道選手権に出場した井上選手は2回戦で敗退してしまい、この発言をした。世間的に名の知られている選手は、私たち一般人の想像を遥かに超える努力をしていることだろう。この井上選手の名言はそれだけ努力しても敵わないものがあることを思い知らされるような言葉である。「こんなものかな」という抽象的な表現からは、言葉にならない気持ちが伝わってくる。自身の気持ちに全く嘘をつかず、想いのままにされた発言に切ない気持ちを受けた人も多いのではないだろうか。

これらのネガティブな名言は全て、自信の大会や、試合に関する感想を述べたものである。先述したように、「スポーツ選手といえば前向き」という先入観を抱いている人は多い。そのような思い込みがあるので、このように自身の感情をありのままに述べる姿を見ると心を打たれるのではないかと考える。

次に、ポジティブともネガティブとも取れる名言は以下のものである。

自信はないし、弱音はしょっちゅう吐くし、びびったりもする。やっぱり自分は弱いですけど、だからそれを埋めようと、練習を一杯する。 高橋大輔

ぼくも後輩たちにとってかっこいい存在でありたい。でもぼくの今のスタンスは万人に受け入れられない部分もある。自分はやりたいことをやっていくから、わかってくれる人だけわかってくれたらいいと思う。それでも「彼についていきたい」と言ってくれる後輩が一人でもいたら、スケーターとして幸せだと思います。 町田樹

高橋選手は自分が弱いことを認めている。この名言が掲載されているナンバーウェブの備考欄にはこう記されている。

ライバルの小塚や織田のパワーを目の当たりにして、『負けそうになって、へこんだ』自分を許せなくて、練習に力を入れるのだという。

「自分を許せない」ということは、自分の弱さをネガティブに捉えているからであろう。しかし、その

自分の弱さを受け止めることで練習意欲の向上に繋がっているということを踏まえると、これからのスケート人生を前向きに考えていたのではないだろうか。

そして、町田選手の名言だが、これは現役を引退することを発表する際に放たれた言葉である。この発言の後に、「平昌五輪まで頑張ります、とはとても言えません。」と続けていることから、向上心が失われていることが分かる。しかし、「自分はやりたいことをやっていくから、分かる人だけわかってくれたらいいと思う。」という言葉からは、自身のスケートに対する姿勢を変えないという意図が読み取れ、それはこれまでのスケート人生に後悔はしていないという面ではポジティブと捉えることもできるのではないだろうか。

最終的には、前を向いて進んでいく姿や、これまでの自身の人生に満足している姿が垣間見られるのが、この「両方含む」に分類される名言である。プロのスポーツ界は実力主義で、非常に厳しい世界である。その世界で、「いつでも常に前向き」な選手は果たしているのだろうか。確かに、どのような状況でも前向きな選手に羨望の気持ちを抱く。しかし、思うようにいかなかったり、失敗したり、挫折したりして、少しネガティブになりながらも、前を見て進んでいく選手たちに私たちは感動するのではないだろうか。さらに、後ろ向きな気持ちを交えながらも、前を向く姿は聞き手自身の生活と重ね合わせやすい。少し、落ち込んだり、ネガティブになったりしたときに、心の支えとなりやすい名言はこの「両方含む」に分類される名言だと私は考える。

最後に、ポジティブともネガティブともとれない名言を挙げる。

チャンピオンになるには、実力と同時に、運も必要。すべての条件が揃ったときに、チャンピオンが生まれるのだと思う。 荒川静香

出場選手すべてがライバルだけど、フィギュアスケートはボクシングみたいに、直接、他人と戦うわけじゃないから。 浅田真央

荒川選手の名言は、浅田真央選手が将来チャンピオンになれるかどうかを尋ねられたときの発言であり、浅田選手の名言は、ライバルは誰かと問われたときの発言である。両者とも、自身の考えを述べているだけで、ポジティブともネガティブとも捉えられないので、どちらともとれない名言に分類した。

荒川選手ならチャンピオンになるための条件、浅田選手なら、ライバルは自分自身であるという点において、それらのことを当然のこととして認識しているのではないだろうか。だから、そのことをポジティブにもネガティブにも捉えることができないのではないだろうか。私情を挟まず、ただそうであるという事実を述べる姿に圧倒される人も多いことだろう。

第四節 名言の内容

研究方法でも述べた通り、名言の内容を「他人を奮起させるもの」「意気込み」「意見」「心構え」「感想」の5つに分けて分類した。それぞれの定義についてフィギュアスケートの例を中心に述べていく。ただし、フィギュアスケートの名言に「他人を奮起させるもの」と分類するものが無かったため、バレーボールの吉原選手、体操の内村選手の例を用いることとする。

○他人を奮起させるもの

…特定の人に向けて発せられた言葉であり、スポーツに対する向上心やモチベーションを上げる要因となるような名言。そして、他人を奮起させると同時に、自分自身に向けてのメッセージでもある名言。

(例) **コートに入れば33歳も19歳も関係ないんだよ。 吉原知子**
8年後の五輪と一緒に出よう。 内村航平

当時33歳で日本バレーボールの代表を務めた吉原選手はこの言葉をチームの最年少である大山加奈、栗原恵に送っている。ベテランである吉原選手に萎縮してしまう若手のメンバーにとっては、この言葉で本来の力を発揮することが出来たのではないだろうか。また、33歳と19歳では経験値におけるの差は歴然であり、その差を19歳の選手は言い訳にはいけないというメッセージであるのと同時に、体力の低下など、年齢を言い訳にバレーはしないという心構えでもあるのではないだろうか。

また、内村選手のこの発言は当時小学6年生であった白井健三に向けて発せられたものである。北京五輪で銀メダリストを獲得した内村選手からのこの言葉は、当時の白井少年の向上心を刺激するものになったのではないだろうか。内村選手の場合も、吉原選手同様、自分自身を鼓舞する名言でもある。8年後の五輪に白井選手と一緒に内村選手自身も出場することを約束しているのである。

このように、特定の人に向けて発せられ、その人を刺激させると同時に自分自身をも鼓舞させるような内容がのべられているものを「他人を奮起させる」に分類した。

○意気込み

…特定の試合、大会に向けての意欲や姿勢について述べられている名言。

(例) **NHK杯まで、あと3週間しかない。 羽生結弦**
2022年に母国で金メダルを取る。これは目標というより、大きな夢です。
金博洋

羽生選手はNHK杯、金選手は2022年の北京オリンピックへの意気込みを語っている。このように特定の大会への熱意を述べているものを「意気込み」と分類した。

○意見

…何かしらの物事に対する、選手の意見が述べられている名言。

(例) フィギュアスケートはジャンプだけではない。スピン、ステップ、音楽表現など、全てにおいてベストな演技をした選手が、勝利するスポーツなのです。 ハビエル・フェルナンデス

選手なら誰でも、納得のいかない判定を経験する。でもそれはどの選手にも平等に起き得ることです。腐ったリンゴはどこの世界にもある。世間はフィギュアというスポーツを、審判を通してではなく、スケーターを通して見て欲しい。 ミッシェル・クワン

これらは、フィギュアスケートがどのようなスポーツなのか、また、フィギュアスケートをどのように鑑賞すべきなのかについて自身の考えを述べているものである。このように、選手の様々なものに対する考えや価値観がのべられているものを「意見」に分類した。

○心構え

…そのスポーツや練習に取り組む姿勢が述べられている名言。

(例) 「優勝おめでとう」と言われるより、「あの時の演技が忘れられない」と言ってもらえる方が嬉しいですし、自分の人生観を氷上で伝えられる選手になりたい。 安藤美姫

**貸し靴の子、世界一を目指す子、どちらも教える楽しさ、やりがいに変わりはありません。
濱田美栄**

安藤選手は、フィギュアスケートを通して、「自分の人生観を伝えたい」と述べており、フィギュアスケートをするに至り、表現者でいようとしている。特定の大会に向けてではなく、フィギュアスケートというスポーツに対する姿勢が読み取れる。

また、後者は宮原知子、本田真凜などを教え子にもつ濱田コーチの名言である。世界の頂点に立つような生徒にも、サポート役に回るような生徒にも平等に接していることが分かる。指導することに対する濱田コーチの姿勢が伺える。

これらのように、選手たちが取り組んでいるスポーツに対する姿勢が読み取れるようなものを「心構え」と分類した。

○感想

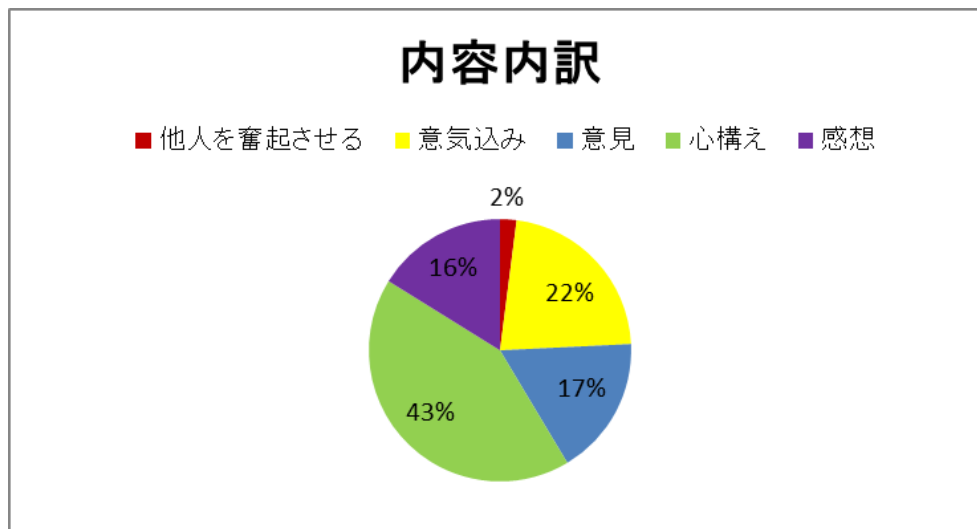
…試合等に関する率直な感想を述べている名言。

(例) 結果次第とは思っていましたが、自分の限界はわかっていたので、最後にすると決めていました。ああ、終わったな……と思いました。 浅田真央

信じられない。2年前、どの試合でも調子が悪くて、自分の才能を疑ったこともありましたが、でも今は自分の能力に確信を持った。ソチで金メダルを取るの、夢でした。 アデリナ・ソトニコワ

両者とも、演技後の感想である。浅田選手の「ああ、終わったな……と思いました。」のように言葉にならないものや、ソトニコワ選手のように「信じられない。」という率直な心情を表したものを「感想」に分類した。

全名言112個のうち、名言の内容の割合を円グラフで表したものが以下のものである。



「他人を奮起させるもの」が2%と一番少なく、心構えを示す名言が43%と一番多いという結果となった。

「他人を奮起させるもの」は、特定の人に向けたメッセージなであり、なおかつ自分自身を鼓舞させるものであり、多くの人からの共感を得ることや、聞き手側の印象に残ることが少なかったのではないだろうか。

それに対して、「心構え」の名言はその人行うスポーツに対する姿勢が読み取れるものである。そして、選手達にとってそのスポーツは人生と言い換えても過言ではないほど、彼らの人生に大きな意味を持っており、彼らが発する心構えの名言はその人の人生観を表しているものが多く見られた。聞き手側は、そのようなスポーツ選手の人生観に感動し、その名言を自分の人生と重ねて考え、感銘を受けるのではないだろうか。名言として取り上げられる発言の中に、選手の心構えが多く見られるのはそういう理由であると考えられる。

それぞれの名言の内容を、分析項目に従って分析した結果を以下に示す。

	男	女	ポジティブ	ネガティブ	両方	どちらとも言えない	精神面	プレー面	両方	どちらでもない
他人を奮起させるもの	50%	50%	100%	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%
意気込み	56%	44%	76%	0%	16%	8%	84%	12%	0%	4%
意見	79%	21%	37%	5%	11%	47%	47%	26%	11%	16%
心構え	70%	30%	62%	2%	9%	28%	77%	6%	15%	2%
感想	56%	44%	72%	11%	11%	6%	61%	6%	22%	11%

人の心に強く印象づけたり、心の支えになったりするものが名言と認識される。一般人が感銘を受けやすいのは、プレー面に関して述べたものではなく、その選手のスポーツとの向き合い方や、考え方である。なので、どの内容でもプレー面に関する名言ではなく、精神面に関する名言が最も多くの割合を占めた。

先述した通り、「他人を奮起させるもの」は特定の人と自分自身を鼓舞するための言葉である。なので、その言葉はどれもポジティブな名言と分類される。

ポジティブな名言が多くを占める中、「意見」だけ、「どちらでもない」が半数近くあった。「意見」の名言の中で、ポジティブともネガティブとも取れない名言の例を以下に挙げる。

バレーは確率、いわゆる統計学のスポーツなんですけど、その確率を高めるのはコート内での集中力。薄紙一枚一枚を重ねるように技を積み上げて、強い精神力がなければ試合で一ミリずつのズレとなって現れてしまうんです。 中垣内祐一

騎手にとって、馬とのコミュニケーション能力というのは、メチャメチャ重要です。 福永祐一

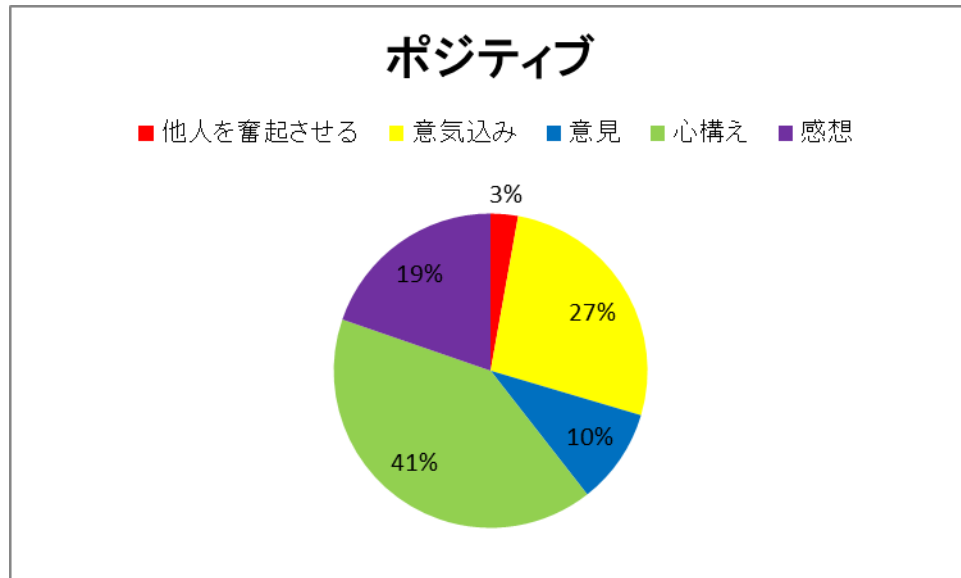
中垣内選手も、福永選手も、それぞれのスポーツに必要なだと自身が考えることを述べている。そこに、前向きな気持ちも、後ろ向きな気持ちも存在しない。私情を挟まず、自身の意見だけを述べることで、その意見に対する真剣さが読み取れる。その人の意見に聞き手が納得するから名言になるのであって、私情に偏った意見は正当性に欠けるものになってしまうのではないだろうか。だから、「意見」の名言にはポジティブともネガティブとも取れないものが、他の名言と比較すると多くなったのだと考える。

そして、ネガティブなものの割合が最も少ない名言が並ぶ中、「感想」の名言だけは、「どちらとも言えない」の6%を上回る11%となった。これは、第三節の「ネガティブ」のところでも述べたが、自身の気持ちに嘘をつかず、正直に試合等の感想を述べる姿に感動する人が多いからである。プロのスポーツ選手は並々ならぬ努力をしていることは、我々一般人もよく知っている。だからこそ、応援している側としては、その努力が報われると選手と同じように喜び、逆に報われないと選手と同じように悔しがるのである。だから、ネガティブな感想を率直に話す選手の姿を見て共鳴し、心を打たれる名言となるのではないだろうか。

第五節 名言の内容と、ポジティブ・ネガティブの関係性

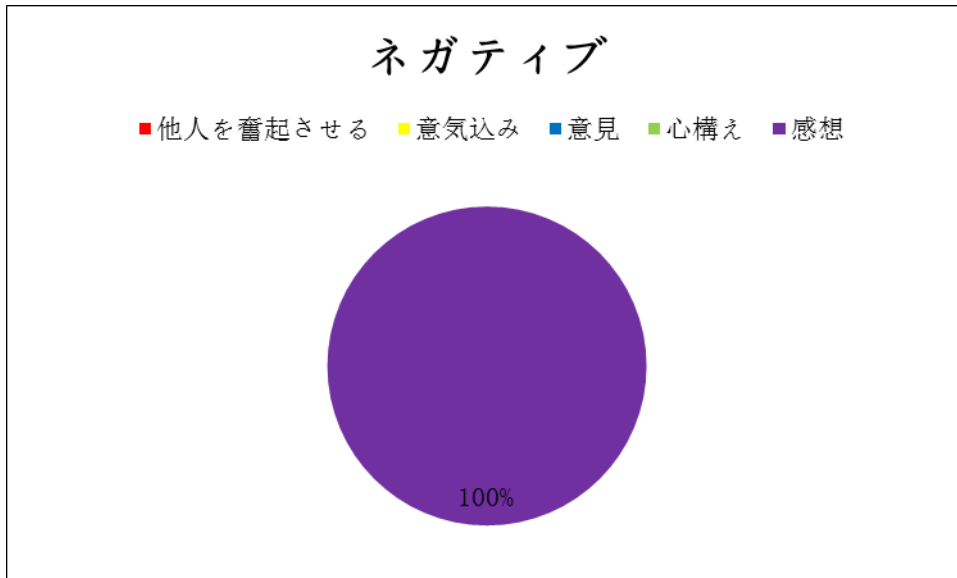
本節では、先述した名言の内容と、ポジティブな名言、ネガティブな名言との関係性について述べていく。

まず、ポジティブな名言の割合を円グラフで表したものを以下に示す。



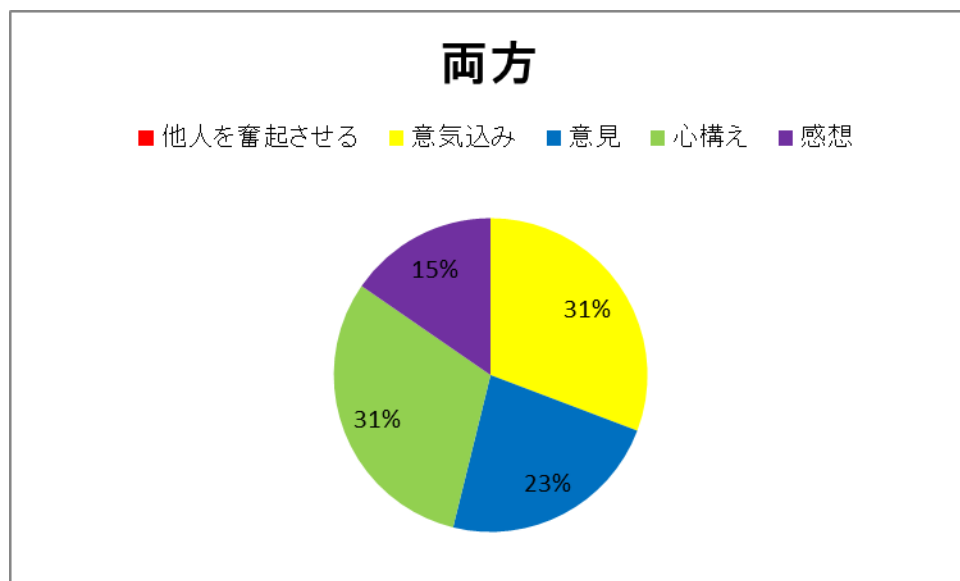
前向きな発言は聞き手にも前向きな感情を抱かせることが多いので、どの名言の内容にも当てはまるものがあつた。繰り返しになるが、「他人を奮起させるもの」は、人を鼓舞させるものなので、全てがポジティブな名言と分類された。

それに対して、ネガティブな名言の割合は以下である。



ネガティブな名言は全てが「感想」の名言である。第一節の冒頭でも示したように、ネガティブな名言は全体の3%しかない。メディア等で取り上げられるスポーツ選手の言葉は全体的にポジティブなものが多い。そのような中で、自身の大会での悔しさを素直に吐き出す姿印象に残り、見る人の心を打つものがあるのではないだろうか。

次に、ポジティブともネガティブともとれる名言である。



ポジティブともネガティブともとれる名言は、「他人を奮起させるもの」を除いて、どれも同じような割合となった。ポジティブ、ネガティブ両方のニュアンスを含む「感想」は以下のものが挙げられる。

それまでは目も合わせてくれなかった人たちが、勝ったとなったら駆け寄ってきて握手を求めに来てくれるんですよ。さすがアメリカですね。 武幸四郎

武幸四郎は騎手である。アメリカで無名だった武騎手だが、アメリカの競馬で活躍した彼は、掌を返したかのように、こぞって称賛されたという。それまで無名で、何も称賛されなかったことに対する皮肉と、称賛されたことに対する喜びが入り交じっている名言である。

そして、両方のニュアンスを含む「意見」には第二説の「意見」の例で挙げたミッシェル・クワン選手の名言がそれに該当する。彼女の言葉は、2002年のソルトレイクシティ五輪で起こった、審判スキャンダル疑惑についての発言である。「腐ったリンゴはどこの世界にもある。」という表現からは、どこの世界にも不平等なことは起こり得ることを受け入れており、採点競技が孕む不透明さの改善を諦めているように感じられる。しかし、「世間はフィギュアというスポーツを、審判を通してではなく、スケーターを通して見て欲しい。」と続けていて、その場にいる審判ではなくて、世間が正當に評価すれば、スケーターは報われると言っている。世間から認めてもらえることが理不尽な判定で傷ついた心の傷を癒す処方箋となり得るのではないだろうか。

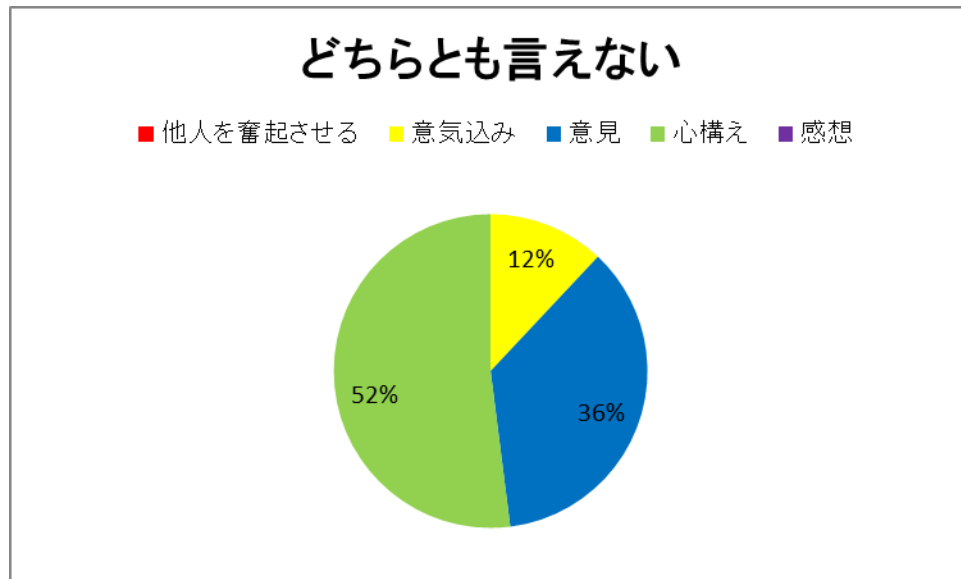
次に、「心構え」である。これは、第一説のポジティブともネガティブともとれる例として挙げた高橋選手や町田選手の名言などが該当する。自身のネガティブな気持ちを出しつつも、前を向いている姿勢は、我々一般人の生活とも重ね合わせやすく共感しやすい名言が多く見られた。

最後に「意気込み」である。これは、体操の白井健三選手の名言が該当する。

日本で一番になろうとしたら世界で一番になったということなんです。次は自分で一番だと認められる選手になりたいと思います。 白井健三

世界で一番になったことを喜ぶ一方で自分では一番と認められていないことが分かる。前向きな気持ちを全面に押し出した意気込みも良いが、少し弱きで後ろ向きな意気込みに親近感が湧き、心に残りやすくなるのではないだろうか。

最後にポジティブともネガティブともとれない名言は以下の通りである。



「感想」の名言は、試合等に関する率直な心情を述べたものであるので、前向きか後ろ向きかどちらかの気持ちが表れており、ポジティブでもネガティブでもない名言に分類されるものはなかった。

どちらとも言えない「意気込み」には、第二説の「意気込み」の例として提示した羽生選手の言葉がそうである。「NHK杯まで、あと3週間しかない。」という言葉からはNHK杯に対する思いが感じ取られるが、怪我をした後のこの発言から、怪我を治しNHK杯に出るという決意が感じ取られるが、「3週間しか」と表現していることから、NHK杯に向けての意気込みがポジティブなものか、ネガティブなものかを断定することは難しいだろう。

どちらでもない「意見」には、第二説の「意見」の例として挙げたハビエル・フェルナンデス選手の例が該当する。フィギュアスケートのチャンピオンになる要素について自分の意見を述べているだけで、そこに前向きな気持ちも後ろ向きな気持ちも存在しない。私情を挟まないからこそ、万人に理解される意見として名言と認識されるのだろう。

最後に、多くの割合を占めた「心構え」である。例としては以下のものが挙げられる。

出場選手すべてがライバルだけど、フィギュアスケートはボクシングみたいに、直接、他人と戦うわけじゃないから。 浅田真央

私には、ライバルはひとりしかいません。それは自分です。ほかの選手が、未来を悪く滑らせるわけではないですから。 長洲未来

浅田選手も長洲選手も、ライバルは自分自身であるという内容の言葉である。彼女たちはそれを当然のことと考えているのではないだろうか。だからこそ、そこに前向きな気持ちも、後ろ向きな気持ちも表れず、強く言い切ることができる。その芯の強さに聞き手は感動するのではないだろうか。

第三章 結論と今後の課題

第一節 結論

名言と一口に言ってもその内容は様々なものがある。その中でも、名言として取り上げられることが多いのは「心構え」であった。スポーツ選手にとってその種目と向き合うことは、我々一般人からすると、人生と向き合うことと同じである。それを聞き手側が自分の人生と重ね合わせ、何か壁にぶつかった時の心の支えになるものとして作用するのではないだろうか。だからこそ、スポーツ選手の名言に多いのは「心構え」なのである。

男女の差も確認された。女性は男性よりもポジティブな名言が多く、その要因はポジティブな「感想」が多いことであった。率直に喜びを表現するのが女性であり、男性は嬉しさの中にも、まだ自己満足はしておらず、さらなる高みを目指す選手が多く見られた

また、名言と聞くと、スポーツ選手の前向きな思考を表しているものばかりだと考えていた。しかし実際は微々たるものではあるが、ネガティブなものも存在していた。大会や試合で思うように結果を残せなかった選手たちの「感想」がそれに当てはまる。我々一般人が、日常の会話でネガティブな発言をすると愚痴に繋がり、名言とはかけ離れてしまう場合がある。それが名言と変化する要因は、言葉を発する人だろう。プロのスポーツ選手は想像を絶する努力をしている。そして、思うような結果にいかずネガティブな発言をしたとしても、その悔しさをばねに後々の努力に繋がっていくのである。また、それが引退の際に発せられ、その悔しさをばねにプレーすることがなくなったとしても、その選手がすさまじい努力を行っていたことを知っている人ならば、その発言を愚痴と捉える人はおらず、選手とともに悔しがり、強がらず、正直に心情を周りに伝えた称賛として名言と化すのではないだろうか。すなわち、これまで結果を残している人であったり、今後さらに努力をして結果をのこしていくのであろう選手たちの言葉はネガティブだとしても名言になりうるのである。その言葉に信憑性があるかどうかが鍵となるのではないだろうか。

さらに、一見ネガティブな発言に思われても、現状を打破するための解決策を見つけたり、明るい未来を思い描いていたりするものも名言として存在していた。上手くいくことばかりではない世の中、スポーツ選手のそのような言葉が励みになる人も少なくないのではないだろうか。

様々な名言が存在していたが、聞き手の人生、状況と重ね合わせやすいものが多いように思われた。立ち足はかかる壁から逃げないことの大切さ、そして時にはその壁から逃げることの大切さを教えてくれているようであった。心に残りやすく、挫けそうな時に支えとなってくれるものが名言と呼ばれるものなのではないだろうか。

第二節 今後の課題

様々な種類の名言があることが今回の研究で明らかとなった。そこで、その中でどの種類の名言が現代の人々の心を打つ名言なのかをアンケート等を利用して明らかにするべきであった。そして、人気な名言の表現特性はどのようなものであるのかを明らかにしたい。

また、今回対象にした競技種目はたくさんある種目のなかでもほんの一部のものである。特に、団体競技はバレーボールのみの研究となったため、団体競技と個人競技の違いにまで研究することができなかった。夏季オリンピック、冬季オリンピックの種目などにも着目して、スポーツ選手の発する名言を幅広く研究し、スポーツ選手の名言について深く理解していきたい。

終章 終わりに

内定先から資格を取得しなさいと言われ、そちらを勉強することを言い訳にしてなかなか卒業論文を進めることができなかった私でしたが、何とか書き上げることができました。国語科に入ったのにも関わらず、文章を書く能力が皆無な私を見放すことなく、常に優しく指導して下さった野浪先生には感謝してもしきれません。そして、そんな私を見守り、時には焦らすようなことを言ってきたゼミ生の仲間にも感謝しています。ゼミにいくと愉快的仲間がたくさんいて、とても楽しく学ぶことが出来ました。

今回、名言というものを研究していくにあたり、私も言葉で誰かの支えとなれるような人になりたいと強く思いました。私自身これまで、たくさんの人に支えられ、助けられてきたので、これからは野浪先生のもとで学んだ表現方法を用いながらも、たくさんの人を支えていけるように頑張っていきたいと思えます。

これまでたくさん支えて下さった野浪先生、ゼミの仲間本当に感謝しています。本当にありがとうございました。